土木学原論事始め(その３)

君は**真実**と**国**と**国民**の為に**死ぬ**ことが出来るか？――**noblesse oblige**[1)]

思い上りを捨て、国民に養って戴いている日々の自覚こそ博士・教授に先ず必要

井上達明建築事務所　個人会員　井上 達明

Ｅ．帰去来――「帰りなんいざ、田園まさに蕪れなんとす」――陶淵明(365～427)[2)]

歸去來兮	歸去來兮、	悟已往之不諫	已往の諫むまじきを悟り、
田園將蕪胡不歸	田園将に蕪れなんとす胡ぞ帰らざる。	知來者之可追	来者の追う可きを知る。
既自以心爲形役	既に自ら心を以て形の役と為す、	實迷途其未遠	実に途に迷うこと其れ未だ遠からず、
奚惆悵而獨悲	奚ぞ惆悵として独り悲しむや。	覺今是而昨非	今の是にして昨の非なるを覚りぬ。

１°日本の滅亡　日本政府・自治体の借金は635兆円になんなんとし、これを返済するには余程の好景気＝バブルにより高い税収を得るか、大インフレを起こして――これも国民の負担で返済するしかない。年金財政も健康保険財政も破綻し、医療は薬漬け、手術漬けで９割は無駄金である。敗戦後、人心は荒廃し、公務員及び大会社社員の高額な人件費(課長クラスで年俸一千万～二千万円)。特権階級の懐は有り余り、そして国は既に滅んでいる。今、日本はローマ帝国の滅亡の道を辿っている。没落大英帝国は辣腕マーガレット・サッチャー首相により没落一歩手前で再生した。巨大債務国アメリカの政府財政は黒字であるが、国全体の国際収支は数千億ドルの赤字であり、ビル・クリントンの自画自賛は滑稽である。日本の小渕首相はバブルの再現を狙い、巨大債務の上、借財を重ねているが、国民の誰もが好景気(＝バブル)再来はないと思っている。

２°一度「無い存在」となって、僧侶として生き返る――タイの仏教　タイでは、普通のビジネスマンも総て、一度僧となり２～３年間修行をする。頭を剃り、僧服を着て、裸足で早朝６時から数時間托鉢に出る。そして修行の後、元のビジネスに帰り、一人前のビジネスマンとして尊敬される。

３°我欲なければ恐れるものなし(佐伯 旭、シャープ社長15年)[3)]

我欲がなければ、お得意とも又社員に対しても自信を持って接することが出来る。目の前の私利私欲に惑わされていては、自分の職務を正しく果たせないし、長い目で見て無私が自分の心と体を幸せにする、と彼は考える。

４°日本再生　バブルなど望まず、蕪れてしまった田園をもう一度耕す、即ち米作りを大事に、物作りを工夫し、我欲に走らず、世の為、人の為、日々働くのが日本人の特徴である。イスラムの銀行は利子を取らない。借金を悪と心得よ。アメリカ高官は傲慢にも、日本はアメリカの保護領だと発言した。

Ｆ．己と自然をありのまま見ることを恐れるな。

１°滅亡日本の現状を直視。ありのままに見つめることの難しさ。ガリレオ・ガリレイ、コペルニクスの天動説は迫害を受け、ジェンナーは種痘を我が子で試した。杉田玄白(1733～1817年)は84歳迄長生きし「九幸先生」と尊称され、自己の境涯を感謝し「医は自然に如かず」と言っている。医療は人に余計な事をしてはいけない。

２°釈迦の掌と孫悟空　錦斗雲に乗って飛び回ったつもりの孫悟空は、結局釈迦の掌の上を飛び回っていただけという寓話がある。人は科学・技術が進歩したと言うが、大きく長い目で見れば、大して進歩していない。

３°思考停止こそ恐れよ

ａ）君は大学で習ったこと、学会の提供する基準等を総てで完全と思い、土木工作物を設計する際、それらに従うことが精一杯で、且つそれに満足してはいないか。例を挙げて説明しよう。1996年北海道豊浜トンネルの古平側の「巻出し部分」に１万トンの岩塊が落下して、バスと乗用車計20名の乗客が圧死した。「巻出し」はspreadingの日本語訳であり、この言葉そのものが間違っている。土圧が均等に掛かる山岳内では厚さ50㎝のＲＣ巻立で事足りても、１万トンの岩塊が落下する坑門付近では全く考えを変えなければならない。筆者の平成８年の大会論文Ⅵ－330「山岳トンネルの坑門の巻出し部分の構造について」参照。明治以来130年、もういい加減に欧米翻訳

日本滅亡、思考停止、豊浜トンネル、大開駅、ノーブレス・オブリッジ
〒555-0011　大阪市西淀川区竹島３丁目７番４号，電話番号：06-6478-1028，ＦＡＸ番号：06-6478-1026

土木工学はやめにしたらどうか。「言葉」は「言霊」そして「思想」なのである。人間は人や己の作った言葉に支配されて行動する。「巻出し」等と技術者を騙さず「坑門落岩防護構造」等とすべきである。

b）耐震基準　1995年の阪神大震災から三年半、地震学の「震度」はマスコミに何百回と現れても、土木、建築の構造計算で用いる「震度」はマスコミに一度も現れず、当然解説されたこともない。建設省、建築学会日本建築センターは震度について、建築基準法施行令第88条２項の0.2廃止を宣言しない(平成９年12月の建築物の構造規定――日本建築センター)のに、平成９年６月の同じく日本建築センターの「建築設備耐震設計・施工指針1997年版」(日本建築センター)では、土木学会と同じ１Ｇ及び２Ｇを支持している。(筆者の建築学会1996年大会論文20002の「地震力による標準震度は1.2に改正せよ」参照) この不整合、怪しさは、80年前の佐野利器の論文震度0.3を甘くした70年前の市街地建築物法の0.1、敗戦後の誤魔化し震度0.2(許容応力度を２倍にした)の尻尾を引き摺っており、建設省も建築学会も廃止を宣言する勇気がない。土木学会は提言で１Ｇ及び２Ｇを発表しているが、これを一般技術者に普及徹底させ、社会に宣言する勇気とエネルギーがない。

c）阪神大震災神戸地下鉄大開駅中柱の崩壊の原因　1995年の阪神大震災の２～３日後、ＮＨＫテレビ「クローズアップ現代」でキャスター国谷裕子から上記崩壊の原因をきかれた東京大学土木工学科の教授は、この駅がシールド式ではなくオープンカットで掘削して築造された物であるのが原因だと述べた。これは神戸市役所及び神戸西市民病院層崩壊が、80年前の佐野の仮説0.3を甘くした0.1(その後0.2)によるものなのに前ｂ項の如く、建築学会が誤魔化しているのと同様、土木学会編著の「土木工学ハンドブックⅠ」の第28編地下構造物の地下駅の項に「耐震設計については通常では必要ない」[4] とあるので、偶数スパンのラーメン構造で地震力を考えず鉛直荷重だけでは、中央の柱には曲げモーメントも剪断力も生じない事にもなる。そういう構造に地震力が襲ったので中柱が毀れたのだ。その場逃れの言葉で一般技術者・市民を騙すことは出来ない。

d）橋桁の落下防止装置　1964年の新潟地震での橋桁落下以来、各地で橋桁と橋桁を繋ぐ金物(60㎝×20㎝位で厚みは1～2㎝か)が取り付けられたが、阪神大震災で筆者の予想通りこれが地震で何の役にも立たないことが証明されたのに、何人もの学者が新聞でこれを「落下防止装置」などともっともらしい言葉で人を目眩まししているのに筆者は驚いた。巨大な橋桁を繋ぐ物は「落下防止装置」などでなく、只の「つなぎ」とでも言うべき物だ。

4°　愚かな自我を脱却した賢明で美しい心のみが美しい景観を造ることが出来る　般若心経の「色即是空、空即是色」の「色」はこの世の形ある物のことである。物は「空」であり、空が物なのである。「無」の思想、自我を脱却した無私の思想のみが物の真理と美しい心を見ることが出来る。又イマヌエル・カント(Immanuel Kant)はGrundlegung zur Metaphysik der Sitten(道徳形而上学原論)において「人間にとって一番価値があり、人間に人間らしい尊さを与えるものは『善き意志』である。それ故もし我々の意志が善でなかったら、折角の才能や性質も極めて悪い有害なものとなりかねない」[5] と述べ、又「絶対的な価値を持つ善意志、人間の尊厳である善き意志とは、純粋に『理性の声に従うこと』である」[6]「この世の幸福を追うのでなく、その幸福を享けるに値すること、つまり道徳義務の命令(純粋な理性の要求)に従うこと、それが『人間の尊さの源泉』である」[7] とした。今は学者さえ理性も善も捨ててしまったように見える。博士・教授を目指す若者よ、君はそんな学者になりたいか？

5°　noblesse oblige（ノーブレス・オブリッジ）　これはフランス語で「**高い身分に伴う義務**」[1] であり「**身分の高い者、豊かな者はそれに相応しい義務を果たす必要がある**」[1] ということである。**博士・教授**といった社会から**尊敬**を受け、社会と若い者を指導する立場にある者、政治家・将軍(参謀を含む)・実業家・技師等凡そ大学を卒業したような者――大学を卒業しない者の方に立派な人間がいるかもしれぬ――は私を捨て、真理と国家・国民そして世界の人達の為ならば死んでもよい位の心構えが必要である。腐敗は政治家・官僚・警察幹部等々のみならず、学者にも偏狭で保身にのみ身をやつす者も数多く「間違っていました。ごめんなさい」と言えない者が多く見られる。

【参考文献】１）三省堂編修所「コンサイスカタカナ語辞典」(株)三省堂，P715，1994年　２）松枝茂夫・和田武司 訳注「陶淵明全集(下)」(株)岩波書店，P142，1990年　３）日経ビジネス編「続有訓無訓」日本経済新聞社，P46，1992年　４）(社)土木学会編著「土木工学ハンドブックⅠ,Ⅱ」技報堂出版(株)，P1210，1989年　５）小牧治「カント(人と思想15)」清水島院，P12　６）同左，P14　７）同左，P18